# 石井造園株式会社 CSR報告書

2012.6.23

YOKOHAMA

## 幸福を共有できる企業を目指して

代表取締役　石井直樹

代表取締役　石井直樹

今年もCSR報告会の開催、並びに報告書の発刊が出来ますのは、お支え頂く皆様のおかげだと心より感謝しております。

東日本大震災以降人々の価値観は大きく変わったと言われます。物質的価値から、精神的価値。自利から、利他。自然と寄り添いながら慎ましく生きる日本人の生き方。縁や恩を大切にしたコミュニティに価値を見出しているように思えます。

昨年、被災地の総務課長さんとお話しする機会があり、「我々東北の、特に一次産業を生業にしている者は、天候不順や地震、自然災害に対し、津波ですら、悔しいけれど、試練として受け止める覚悟がある。しかし、福島の人の心中を察すると、諦めきれない思いにさぞかし無念であろうと思う。原発の事故は我々が招いた人災であり、祖先や子孫に償いきれぬ思いであろう」と話してくださいました。「官民一体となり以前よりも良い国を創る事を、お亡くなりになった方の為にも誓う」とも仰ってました。個人も企業も行政も、世の為人の為に働き、社会的責任を果たす事が真の復興だと思います。

横浜型地域貢献企業の認定制度も6年目を迎え、インセンティブが更に強化され、価値ある物になりました。これからは、横浜型地域貢献企業同士が連携をして、活躍の場を得ることで、横浜の発展に寄与していきたいと思います。

今年度も「ついでに、無理なく、達成感のある事をしよう」の合言葉のもと23件の活動を展開しました。

特に意識して行ったのが、次世代を担う若者のキャリア教育と、文化、芸術アートに関することでした。

NPO法人ETIC様の協力でインターンシップの受け入れをし、大学生の長期インターンシップでは共に汗を流して壁面緑化の普及に寄与した菅野将城君が地域仕事づくりチャレンジ大賞学生部門で関東ブロックの代表となり、全国大会の大舞台で発表をしました。

中学生の職業体験では3校から申し込みがあり、2校6人の生徒を受け入れ、実習体験の中から働くことの尊さや利他の精神を伝えました。

大学や生涯学習の場で、環境の事、働くという事、企業の社会的責任等、業を通じた講話を8回させて頂き、弊社の考えをお伝えしました。零細企業の活動が、皆様の何か一つでも役に立てば幸いです。

3年に一度開催される現代アートの祭典、「横浜トリエンナーレ」では新港村（しんみなとむら）の緑のカーテンを受注し、出展団体では唯一「株式会社」での参加を致しました。9月の台風でおおかた吹き飛んでしまいましたが、幅30m、高さ9mの緑のカーテンは、来場者の涼をとるのにひと役買ったと思います。

7月には著名なダンサー4人による、子ども向けダンスワークショップと、一夜限りのコンテンポラリーダンス「LIFE GOES ON」を弊社倉庫で開催し、観る文化を提唱する事で、芸術アートを支える大切さを伝えました。その他活動に於いては以降紹介いたしますが、他団体との協働により、成果がより高まったと感じております。

今年度は1件の工事を受注し、88点でした。平成23年度までに横浜市発注の工事は、累計で26件の内23件が80点以上の評価を頂いております。21年度は優良工事請負業者の表彰を受けました。

5月にマネジメントレビューを実施し、下記の24年度CSR目標を策定いたしました。これからもより良い会社づくりに邁進し、信頼される企業を目指して参ります。再来年の50周年を見据え、48期を迎えて、お支え頂きました協力会社の皆様、継続して仕事を頂いているお客様、いつも見守って下さる地域の皆様に深く感謝いたします。

## 私たちの想い

石井造園になにが出来るか―。常日頃、私たちが考えていることです。

私達には大きな会社のような事はできませんが、私達しかできないことがあります。

「地域に根差した活動」これもそのうちの1つです。地域のみなさんの笑顔がみられるよう、知恵を絞って頑張っていきます。日々進化している石井造園に乞うご期待!!

CSR推進責任者　梅津大輔

## 石井造園株式会社 経営理念

**企業活動を通して、顧客及び社会から信頼される企業をめざす**

### CSR方針

**石井造園株式会社は経営理念にある、顧客及び社会に信頼される企業を目指すため、生業の全てにおいて、地域志向CSR方針を打ち立て事業を展開していきます。**

1）活き活きとした活力ある職場環境を作ります。
2）仕入れや発注先は地元を優先し、地域経済の発展に寄与いたします。
3）緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します。
4）法に抵触する事はもとより、事後に発覚し格好の悪い事は、絶対にしません。
5）この活動の有効性を監視し、永続的に改善いたします。

**CSR方針に基づき地域社会の一員として、地域に活かされている我々である事を確認し、地域貢献企業として事業を展開していきます。**

### 平成24年度CSR目標

① 社員研修旅行に行く
② NPO及び協力業者とのコラボレーション
③ 各現場で緑化啓蒙活動を実施し苗木配布を500本する
④ 倫理的行動規範を充実する

## 大事な言葉が詰まっているお客様アンケート

弊社のISOの取り組みの中でお客様アンケートがあります。作業が完了した後、私達の仕事の評価を頂いております。褒めて頂く事もあれば、お叱りの言葉を頂く事もあります。どれも貴重なご意見です。

弊社では、それらの意見を参考に改善していきます。皆様、お客様アンケートに是非ご協力をお願いします。

◇

《石井造園アンケートにはこんな質問を載せています》

■スタッフからの提案、アドバイスはお役に立ちましたか
■当日の作業員の態度、印象、服装はいかがでしたか
■ご近所への挨拶、配慮が出来ていましたか
■思っていた仕上がりとなりましたか

## お客様アンケートのコメント

こちらからの要望が多いので大変だとは思います。主人は自分がいる時にしてもらいたい人なので予定通りにはいかないとは思いますが、顧客満足にはお客様とのコュミケーションが仕事を行うのにやりやすいとは思います。主人は見ながら、伝えながら出来たので満足しております。

樹木の知識はさすがとおもいます。いろいろ参考になりました。来春よみがえってくれることを期待しております。ありがとうございます。

隣接の小学校、職員室に迷惑をかけた。私共が不在の時に作業をお願いしてしまった事も改善すべき点だが今後立ち会いも必要か？

リーダーの指示が良かったので、はかどり満足しております。まだ植木に関して2回目なので、他の植木屋さんを止めて石井造園さんにしたのですから、大変満足までは本当の所行きません。同じ業者をずっと続けてお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

## 緑化基金やってます！

20年度より弊社独自に緑化基金を設立しました。緑あふれる地域の学校、施設、団体の活動のために使わせていただきます。基金は、現在弊社の工事・作業・手入れ等の全業務において、請求金額のうち末尾3桁の金額(1~999円)までを集計し、さらにその同額を弊社からも寄贈します。123,456円の工事の場合、工事金額から456円と弊社から同額の456円を合計し、912円を基金とします。年間の合計額を諸団体と相談して、植樹、鉢植えの寄贈のほか、緑化活動の為の費用として大切に利用したいと考えております。21年度は66,266円が集まり、22年度は80,123円が、そして23年度は98,689円が集まりました。今後も引き続き継続していきます。小さな活動ですが、地域のために出来ることを一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。

### ご協力頂いた方々

アオイ産業・(宗)青木神社・青柳様・荒井様・アンセプス・飯島様・イオンディライト㈱・石井茂様・石井晋様・糸矢様・井上様・宇多様・宇野様・梅内様・㈱エバーグリーン・エミナンス井土ヶ谷管理組合・エルダーホームケア・及川様・大江電機㈱・大河商事㈱・大曽様・大船ルーテル保育園・岡島様・尾見様・かさまの杜保育園・神奈川県警友会・神奈川労働福祉協会・㈱カモメ建設・(有)関東建設・菊嶋様・君塚様・黒川様・㈱九つ井・五藤様・小山台中学校PTA・斉藤様・栄区民祭・坂本様・澤田様・三洋装備㈱・三栄興業㈱・JIA神奈川・芝浦エンジニアリング㈱・清水様・湘南建設㈱・定泉寺・鈴木様・関様・㈱センチュリー工業・高田様・高橋様・竹生田様・㈱タクエー・東洋英和女学院・都市経営研究所・戸塚サニーフラット・中野地域ケアプラザ・㈱長野工務店・名瀬たかの台地区みどりのまちづくり会・㈱日産クリエイティブサービス・日進建設㈱・㈱ニッパツサービス・西横浜ひかりのくに・野庭幼稚園・(有)伯友開発・萩原様・長谷川様・畠山様・廣島様・深田様・福井様・福岡様・福田様・富士火災海上保険㈱・星様・㈱本牧ビルサービス・松平様・㈱丸李造園土木・㈱丸保・南小菅ヶ谷住宅自治会・みなみ幼稚園・三好様・宮本様・(有)山本工務店・横浜市・横浜市グリーン事業協同組合・横浜市社会福祉協議会・横浜中央地下街㈱・(有)吉田材木店（敬称略・五十音順）

## ～石井造園さんのCSRに対する第三者意見～

CSRに取り組むポイントは、自分たちにとって重要なステークホルダー（利害関係者）のニーズに応える取り組みをし、それを効果的に伝えることです。この点に関わって、石井造園さんの評価できる点や課題を整理しておきましょう。

**1．取り組み方針がいい**

「ついでに」「無理なく」「達成感のある」を方針としている点です。負担感がなく、達成感のあることは、継続しやすくなります。しかも、達成感を得られることは、取り組みのモチベーションにつながるだけではありません。戦略評価の指標を作りやすく、適切な事業評価ができます。

**2．ふれあいを大事にしている**

ニーズ把握や取り組みの伝達を効果的に行うには、ステークホルダーと触れ合うこと、事業や活動に巻き込むことが大事です。思いや心などといった感性情報のやり取りができるからです。「CSR報告会」はその最たる例です。また、地域の人々のために、工事を請け負った「矢沢なかよし公園」の「開園式」を、思いを込めて開催しています。「チャレンジベンチャーさかえっ子」への参加も、よいと思います。参加は、ふれあいの契機になります。

**3．詳しい情報の開示**

もちろん、製品や作業にかかわる数値や手順、作業結果など、詳しい理性情報を伝えることも重要です。その点も開示されています。また、ホームページで、環境保全への取り組み実績を数値で開示している点もよいと思います。

**【取り組みに関わるアドバイス】**

ホームページで開示されているのは、石井造園の思いや社会的意義であり、よい内容だと思います。ただ、あらゆる取り組みは、戦略評価の対象にせねばなりません。ホームページ開示する必要はありませんが、定期的に評価をされることをお勧めします。

横浜市立大学CSRセンター長
影山 摩子弥
『地域CSRが日本を救う』敬文堂

## 雇用創出というCSR

造園部　小林徹也

ビール好きの私は今年の社員旅行の際、オリオンビールの工場見学に行きました。そこで商品が会社の姿勢を表すということを実感することになりました。

ご存知オリオンビールは沖縄の地ビールで、沖縄料理には欠かせないビールです。しかし個性的なビールが好きな私は地ビールメーカーなのにオーソドックスな味のラインナップに少々物足りなさを感じていました。ところがその「オーソドックス」であることには大切な意味があったのです。

オリオンビールの創始者は「戦後の不況の中、この会社を通してたくさん雇用を生み出したい」という想いで会社を大きくさせたとのことです。オーソドックスな味＝一番沢山の人に愛される味ということ。沢山の人に愛されて、沢山の雇用を生みだそうとしたのですね。雇用という社会的責任という視点から見ても、この「オーソドックスな味」が沖縄に果たした功績は本当に大きかったと言えるでしょう。

そんな物語を想いながら飲むオリオンビールは一味違うものになりそうですね。